

成長の軌跡

ビジネスモデルの特長

当社グループは、金属を中心とした多様な素材に防錆性・耐久性・塗装品質の向上などの機能を付与する表面改質技術をベースに、薬品・加工・装置の3事業が連携することで、

薬品(化学)×加工(サービス)×設備(エンジニアリング)をワンストップで提供できる世界最大級の表面処理企業グループとして独自の競争優位性を築いています。

また、企業理念として「限りある資源を有効活用し、表面改質技術を通じて新しい価値を創造する」ことを掲げ、表面処理を通じた資源効率化・長寿命化・環境負荷低減に貢献するビジネスモデルを推進しています。

当社グループの技術は、素材製造の初期工程から部品加工、最終製品の仕上げ工程に至るまで、サプライチェーンの広範な領域で活用されています。素材段階では防錆や塗装密着性向上のための薬剤が用いられ、部品加工や組立工程では熱処理やめっきなどの加工サービスが製品の性能と信頼性を支えます。最終工程では電着塗装装置や粉体塗装装置が品質と生産効率を高め、調達から組立までの各工程で安定した製造を実現します。

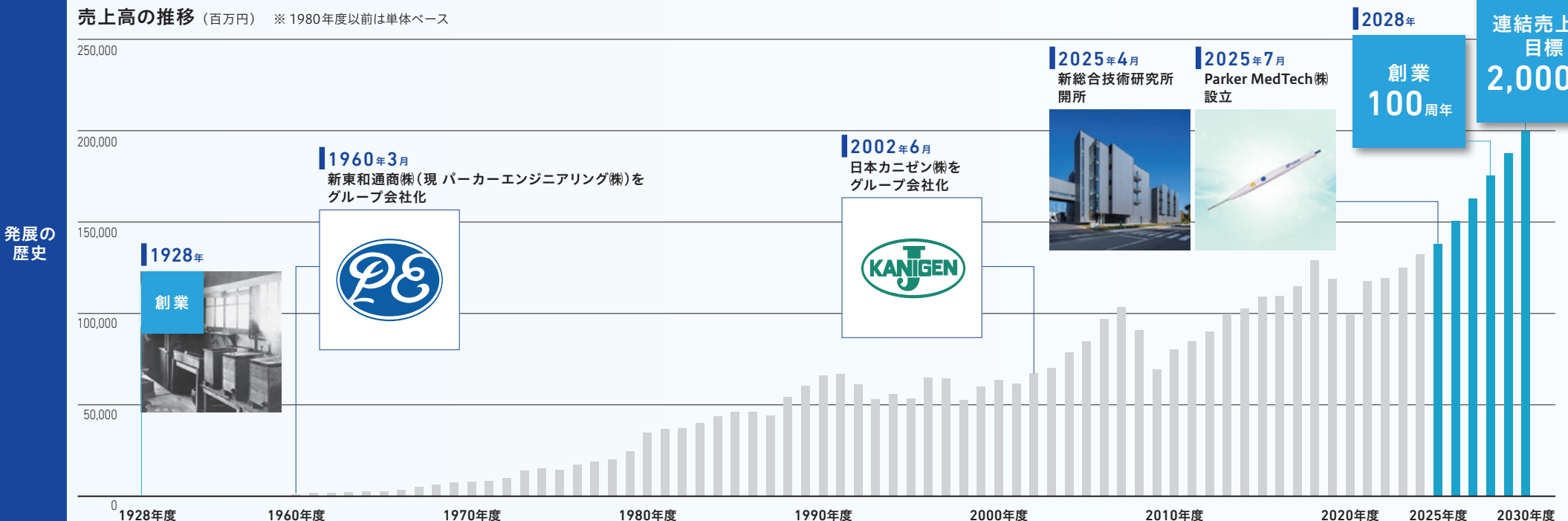
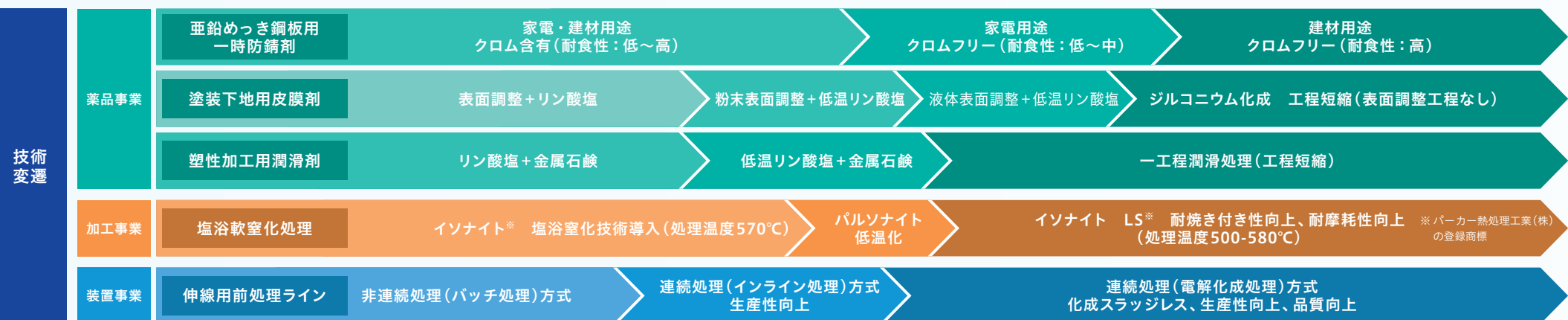
また国内外50社を超えるネットワークにより、アジア・北米・欧州など世界各地の産業構造や規制に対応した製品・サービスを提供しています。研究開発から製造、技術サポートまでを一体的に行う体制を強みに、環境対応型技術の開発も進め、またグループ連携の強化に取り組み、持続可能な社会への貢献と企業価値向上を進めます。

社名の由来

“日本パーカライジング”の社名は、リン酸塩皮膜処理技術を工業的に発展させた中心人物であるClark W. Parker (1915年、Parker Rust-Proof Phosphating Company創業)に由来します。

彼の発展させたリン酸塩処理技術は、「パーカー処理(Parkerizing)※」と命名され、現在でもこの名称は世界的に定着しています。

※パーカー処理とは、鉄素材にリン酸塩皮膜を形成し、防錆性・塗装密着性・耐摩耗性・潤滑性を高める化学処理であり、100年以上の歴史を持つ工業界の標準表面改質技術です。



1928~1950年代

創業と基盤形成

1928年、米国パーカー・ラストブルー社から防錆技術および特許を導入して創業。金属腐食対策の表面処理で国内ニーズをつかみ、NHK鉄塔などインフラ案件に採用された技術力が評価を受ける。戦後は関連会社を設立し営業基盤を整備しつつ、金属防錆薬品のトップ企業としての立ち位置を固めた。

1960~1980年代

事業拡大・多角化・海外展開の本格化

1960年代は企業買収による事業拡大や熱処理事業を開始、各地で工場増設を進め、東京証券取引所への上場により財務基盤を強化。1965年に台湾、1979年には米国・タイなど海外子会社を設立し、海外展開を本格化。1980年代には総合技術研究所を設立、ヘンケル社との技術提携により技術開発力を強化。

1990~2000年代

技術領域拡大と事業再編

1990年代は各地域に技術センターを設置し、顧客サポート体制を整備。粉体塗装機器を扱うアイオニクスの事業買収(1996年)や日本カニゼンの買収(2002年)などにより、機能性表面処理や装置領域への拡大を推進。事業の裾野を広げながら競争優位性を高め、総合的な表面処理メーカーとして存在感を確立。

2010年以降

グローバル強化とグループ再編

2010年代にはインド(2010年)・中国(2013年・2018年)で現地法人を設立し、アジア圏での市場拡大を加速。2018年にはパーカー興産と合併し、グループ再編を推進。世界12カ国・地域で事業展開する体制を築き、薬品・加工・装置の「三位一体」ビジネスを発展させ、グローバル供給体制をより強固にしている。